

## 応用実習プロジェクト

応用実習は、既に教育実習を履修している教育学部生のうち、希望者を対象に4年次に開講されており、本学部の附属校園および高知県下の公立小中学校で実施しています。実習期間は2週間で、実施時期は、附属小学校・中学校では、4月～6月、高知県下の公立小中学校では9月、高知大学附属特別支援学校・幼稚園では2月となっています。

本実習の目標は、附属校等での教育実習を経験し、更に、実習体験を積み重ねることで、将来、教職に携わる上で必要な資質・能力・態度を高めることにあります。それまでの教育実習で、基礎的な能力を既に身につけていることを前提として、教科指導だけでなく、生徒指導、教育実務、地域・保護者との連携等、様々なことに取り組みます。

応用実習の履修生は、予め課題を設定し、その課題の解決に向けて実習に取り組みます。そして、その成果を課題研究レポートとしてまとめます。

例年、本実習の履修生は、教職に対して高い意識をもって臨んでおり、設定した課題以外にも多くのことを積極的に体験・習得しながら、様々な状況に対応できる力を身に付けています。そして、履修者の多くが、卒業後、教員として全国の教育現場で活躍しています。

応用実習プロジェクトは、本実習を円滑に実施・遂行するための運営組織であり、実践総合センター教育実践部門のスタッフと教育学部教員の中から選出された委員で構成されています。そして、履修生のアドバイザー教員など、多くの学部教員の協力も得ながら、学生が実りある実習を行えるよう、様々な業務にあたっています。